

旧田沢湖町、仙北市職員として課長、部長職などを歴任し定年退職後には仙北市副市長としても活躍されました。

また、仙北市地域運営体第1号の田沢地域運営体「荷葉」の設立に積極的に取り込み、初代事務局長に就任し、運営体の事業・農村喫茶「たざわ」を設置し地域の憩いの場にされたほか、田沢地域の様々な課題解決や発展などに尽くしていただきました。

現在も運営体の顧問として活躍されるなど多方面で活動活躍されています。



浦山 清悦さん
(76歳 田沢湖田沢)

茶立ての清水を守る会代表として、国道341号沿いにある茶立ての清水が平成2年に設置されてから現在に至るまで30年以上の長きにわたり清水周辺の清掃活動などに尽力されています。

また、利用者からの協力を社会福祉協議会やユニセフ、ボランティア連絡協議会、国境なき医師団などに寄付するなど、ボランティア活動を通じて地域の社会福祉にも貢献されており、昨年にはボランティア功労者(個人)として功労厚生大臣表彰を受賞されました。



青柳 征之さん
(77歳 田沢湖生保内)

包括支援センターの事業の一つ「若帰り教室」で行われたフットセラピー(足裏教室)の参加をきっかけに、講師の勤めもあり、フットセラピーの指導資格を取得。その後、平成24年から現在までの約10年間にわたり、ボランティアでフットセラピーを指導しています。

また、さくらフレンドサークル(現在会員25人)を立ち上げ、市内各地区から参加の会員とともに毎月第2・第4水曜日に角館交流センターでサークル活動を行い、地域の交流推進に貢献されています。



船山 カツ子さん
(79歳 田沢湖梅沢)

角館中学校卒業後、家業の鍛冶屋を継承。鍛冶屋をやめた後には角館榊細工伝承館に輔(ぶくろ)を寄付されました。

その後、農機具屋に勤め、現在も農機具に不具合があった場合などはすぐに駆け付け、修理を行うなど、農家のために尽力されています。

また、神社・仏閣行事に積極的に参加、長年にわたり奉仕されているほか、地域の高齢者に対する支援(病院検診等)や町内会の役員を務めるなど、長年にわたり地域の活動に貢献されています。



菅 貞雄さん
(88歳 角館町西野川原)

10月30日、東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)で、あきたまるごとAターンフェアが開催されました。Aターンフェアは秋田県、秋田労働局などが主催の秋田へU・I・Jターンを希望する方を対象にした就職や移住の相談会・展示会です。県内企業の採用担当者や市町村の移住担当者がAターン希望者の相談にお応えするもので、仙北市からは、インスパック(株)、(株)神巧業、仙北市役所が参加しました。

仙北市ブースには、仙北市出身者やご両親が仙北市出身の方、親友が仙北市にいる方など様々な方が訪れました。

相談者の中には市内移動の不安を述べる方もおり、よびのる角館やたっこちゃんモビの新型モビリティサービスの取り組みに興味を持たれていました。



Aターンフェアが行われた会場の様子。

また、仙北市ブースを訪れた方々は仙北市の伝統や自然の魅力を改めて感じて、仙北市に移住したい様子でしたが、転職に不安を感じているようでした。市内就職を検討したい方には、市内から参加の2社をご案内しました。

今後様々な機会で、移住先としての市の魅力を発信し続けていく予定です。

令和4年度 地域輝き表彰

仙北市では、明るい社会づくりの一環として、様々な分野で社会参加し、地域の中できらりと輝き活躍している65歳以上の方を表彰しています。令和4年度に表彰された4人をご紹介します。(年齢は令和4年10月31日現在)



角館町内の特設コースをたすきでつなぐ



第9回 秋田25市町村対抗駅伝 ふるさとあきたラン! 仙北大会

10月16日、大曲支援学校せんぼく校を主会場に仙北市内循環特設コース(9区間、33.0km)を走る「第9回秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン! 仙北大会」が開催されました。今年で9回目の開催となる県内全市町村が一堂に会し、市町村の代表選手

によるチームで競い合う同大会。セブンイレブン小館店前をスタートした選手たちは、角館武家屋敷通りなどの角館町内と白岩地域を結ぶ特設コースを各チーム9人でつなぎました。ゴールとなった同校では、選手たちが戻ってくると大きな歓声が上がりました。

総合優勝は大館市が第1回大会以来となる栄冠を勝ち取り、仙北市選抜チームは、総合第13位(出場24チーム)、市の部門で第11位の成績(1時間57分26秒)を収めることができました。仙北市選抜チームの松本成年監督は「選手たちの力走が市民の皆さんに

勇気と元気を与えたとと思う」と振り返りました。また、1区を走った草碧碧羽さん(神代小・6年)は「スタート地点は応援もすぐく緊張した。郡の陸上大会1000mの種目で2位になり、優勝した選手をライバルとして練習してきた。そのライバルにこの大会で勝つことができたし、タイム的にも満足できる走りが出てよかった」と話しました。



仙北市選抜チームの選手の皆さん。

総合成績

第1位	大館市	1:44:21
第2位	秋田市	1:47:34
第3位	横手市	1:48:55

第50回角館町榊細工伝統工芸展

第50回角館町榊細工伝統工芸展が角館榊細工伝承館で開催され、秋田県知事賞に米沢研吾さんの作品「ひび皮茶筒」が選ばれました。

同展には、榊細工職人をはじめ榊細工問屋から伝統的工芸品の部に19点、一般品の部に23点の展覧がありました。審査の結果(賞名・作品名・受賞者)は次のとおりです。(敬称略)



秋田県知事賞を受賞した米沢さんの作品「ひび皮茶筒」。

秋田県知事賞を受賞した米沢研吾さん(右)。

- 秋田県知事賞 ひび皮茶筒/米沢研吾
- 東北森林管理局長賞 小箱/三浦勇
- 仙北市長賞 田口鉄蔵賞 抹茶入/三浦勇
- 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞 ミニキャニスター/佐藤大
- 秋田県伝統的工芸品等産業振興協会賞 たたみものカフス(無地皮)/米沢研吾
- 秋田県議会議長賞 榊細工長方小箱/鈴木光男
- 仙北市議会議長賞 琴爪入れ/千葉秀喜
- 一般社団法人田沢湖・角館観光協会賞 ペンダントライトnoix(フア)/旬富岡商店
- 仙北市商工会長賞 ひび皮長方小箱/鈴木光男
- 角館町榊細工振興育成協会賞 線香、ローソク入/鈴木保
- 秋田魁新報社賞 素箱 十二角盆/(株)藤木伝四郎商店
- NHK秋田放送局賞 線香筒/鈴木保
- ABS秋田放送賞 名刺入(上)/旬富岡商店
- AKT秋田テレビ賞 ウォールシェルフ/(株)八柳
- AAA秋田朝日放送賞 榊二色組替茶入/荒川慶太郎

首都圏などから県内への転職や移住促進に向けたプロモーション

あきたまるU・I・J

Aターンフェアに

出展しました!

また、仙北市ブースを訪れた方々は仙北市の伝統や自然の魅力を改めて感じて、仙北市に移住したい様子でしたが、転職に不安を感じているようでした。市内就職を検討したい方には、市内から参加の2社をご案内しました。

今後様々な機会で、移住先としての市の魅力を発信し続けていく予定です。

園児たちが建設重機にふれる

建設重機体験学習会

10月20日、松木内川河川公園で、こども園の園児たちを対象に建設重機体験学習会が開催されました。これは、建設業の担い手の確保・育成に向けた取り組みの一環として、秋田県仙北地域振興局と一般社団法人秋田県仙北建設業協会建友会、同協会女性部の共催により行われました。

この日は、こども園の園児のきなきなきも園なかせんワイワイらんど(大仙市)の年長組の園児たちあわせて42人が参加。ヘルメットをかぶった園児たちは、高所作業車に乗ってみたり、ホイールローダーやバックホウなどに乗車し、実際にレバーなどを操作して動かしていました。また、ユニック車で重い荷物が吊り上げられると園児たちからは歓声が上がっていました。

ひのきなきなきも園の柏谷怜音くんは「高所作業車は高くて怖かったけど、楽しかった」と話しました。



大きい建設重機に園児たちは楽しそうに乗っていました。



最後はトラック対園児たちで綱引きが行われました。

山越えした南部藩に驚き

第26回北浦・滴石史談会交歓会

10月24日、田沢湖総合開発センターで「第26回北浦・滴石史談会交歓会」が開催されました。同交歓会は、北浦史談会と滴石史談会(岩手県車石町)が相互の交流を深め、歴史や文化などを学ぶために2年に一度開催しているもので、今回は仙北市を会場に行われました。

この日は、栗石町の佐藤嘉彦教育長と滴石史談会の会員など18人が来訪。戊辰戦争の戦地となった生保内口の戦いについて、関係する場所を実際に訪れ、歴史を振り返りました。

戊辰戦争(1868年・1869年)では、久保田藩(秋田藩)と南部藩(盛岡藩)が生保内で決戦。5000人の兵士を要する南部藩は、国見峠を越え、本道(秋田街道)を進む隊と標高千メートル級の険しい間道(脇道)を進む隊の二手に分かれて侵攻。間道を進んだ隊の一隊が武蔵野を駆け進み八幡堂林(現生保内神社)を占領しました。その後、久保田藩は八幡堂林を奪還、一進一退の攻防が続いたものの、久保田藩の勝利で終

わったといわれています。交歓会では、観光情報センターフォレイクに展示されている田沢湖周辺の模型を使用して北浦史談会の説明により南部藩の侵攻の足跡を辿りました。その後、最初の戦場地となった八幡堂林に場所を移し、侵攻してきた山並みを見ながら当時の説明がなされました。最後に、南部藩の兵士が陣地を設けたとされる柳沢を実際に訪れました。

両史談会は、交歓会を通じて戊辰戦争の歴史を共有し、相互の交流を深めました。



生保内口の戦いの最初の戦場地となった八幡堂林(現在の生保内神社)。

今回で5回目、世界各国から作品が集まる国際空撮映像コンテスト

仙北インターナショナルドローンフィルムフェスティバル

10月30日に仙北市民会館で仙北インターナショナルドローンフィルムフェスティバルが開催されました。2018年から始まり、今回で5回目を迎えます。日本国内のみならず世界各国から多くの作品が寄せられ、毎年素晴らしい映像に出会うことができ、映像祭へと発展してきました。

今年も、ネイチャー部門、クリエイティブ部門、観光プロモーション部門の3部門に合計140の作品が応募され、注目度の高いフェスティバルとなりました。



受賞作品はこちらをご覧ください。



- 受賞作品(作品名)—
- ▶グランプリ/Killing Me Saltly
 - ▶ネイチャー部門 優秀賞/守りたい秋田の里地里山50 秋田県大 & オーディエンス賞 仙市大沢郷宿椒沢(はつかみざわ)地域「秋の日」
 - ▶クリエイティブ部門 優秀賞/North East Passion
 - ▶観光プロモーション部門 優秀賞/小田原城
 - ▶仙北市長賞/beautiful tohoku 1ヶ月しか見れない水没林
 - ▶新人賞/Winter in Fukushima -Cinematic Japan-
 - ▶審査員特別賞/“地域を味わう”小旅行! ~豊岡市日高町神鍋高原~

作家の川上弘美さんが講演

角館図書館後援会主催 第60回文化講演会

10月30日、角館図書館後援会主催「第60回文化講演会」が角館榊細工伝承館で開催され、市民など110人が来場しました。

講師に芥川賞や女流文学賞、谷崎潤一郎賞など、数々の文学賞を受賞している作家の川上弘美さんを迎え、「秋田の俳人石井露月と安井浩司を読みつつ小説を書くことと俳句をつくることを考える」と題して講演が行われました。

講演で川上さんは、俳句が確立されるまでの歴史を振り返り、明治から昭和にかけて活躍した正岡子規や高浜虚子のほか、劇作家としても活躍した寺山修司などの俳句を解説。秋田の俳人・石井露月と安井浩司の作品も紹介し、それぞれの背景や意図を読み解きながら、書くことについて述べました。

川上さんは「ものを



講演する川上弘美さん。

10月30日、市役所角館庁舎で「榊細工で生まれ変わった奇跡のピアノコンサート2022」が開催されました。コンサートは、仙北市とOtoを楽しむ会(安藤満里代表)の共催により行われ、会場には演奏を聞こうとおよそ80人が訪れました。

榊細工で生まれ変わった奇跡のピアノコンサート

美しい音色が会場包む

同会は、神代小学校改築に伴い廃棄される予定だったグランドピアノに榊細工を施し、以後「榊細工で生まれ変わった奇跡のピアノ」として市内でコンサートなどを開催しています。

この日は、秋田県内を中心に活躍する伊藤伸さん、野尻弘子さん、浦恵美さん、そして安藤代表が出演。はじめに伊藤さんがシューマンの「トロイメライ」やドビュッシーの「夢」など計6曲を披露。訪れた方々は美しい音色に聞き入っていました。

また、浦さんのピアノ演奏にあわせて野尻さんが歌声を披露したほか、最後に安藤代表がクラリネットで加わり、華やかな演奏が会場に響き渡りました。



伊藤伸さんが弾くピアノの美しい音色が聴衆を魅了しました。

濱田謹吾銅像建立35周年記念式典

10月23日、戊辰戦争において角館の歴史的町並みを救い、異境の地に散った大村藩少年鼓手、濱田謹吾少年の銅像建立35周年記念式典および祝賀会が、戊申会の主催により盛大に開催されました。

蘭田裕史大村市長、村崎浩史大村市議会議長、大村市吾往会など総勢46人が遠路来訪され、多数の仙北市関係者とともに濱田少年、大村藩士への追悼と感謝の念を新たに、両市の友好がさらに深まる記念事業となりました。



天神山で開催された銅像建立35周年記念式典の様子。

第12回全国和牛能力共進会

田口春美さん・相馬勲さん・伊藤則夫さんが功労者表彰を受賞

10月6日から10日にかけて、5年に1度の和牛品評会「全国和牛能力共進会（全共）」が鹿児島県で開催されました。和牛の改良の成果を競い合う全共。JA秋田おぼこ管内からは田口とみ子さんと相馬勲さんが出品した2頭を含む4頭が秋田県代表として出品され、一等四席になりました。また、全共にこれまで3回以上出品した田口春美さん、相馬勲さん、伊藤則夫さんが全国和牛登録協会より功労者表彰を受賞しました。



右から相馬勲さん、田口とみ子さん、田口春美さん、伊藤則夫さんの奥様の伊藤瞳さん。



相馬勲さんが出品したこまぐさ100号。田口とみ子さんが出品したはるにしぎ464号。

8月8日、9日に愛知県体育館で開催された第19回全国中学生弓道大会に、角館中学校の田口健成さん（3年）、細川瑛太さん（3年）、藤澤遥陽さん（2年）、草薙史さん（2年）の4人が出場しました。残念ながら予選敗退となりましたが、全国大会という緊張感のある中で4人は健闘しました。9月10日、11日に栃木県で開催された第77回国民体育大会（とちぎ国体）弓道競技会には、秋田県内の国体強化指定選手選考練成会での選考、第49回東北総合体育大会（三二国体）を第3位入賞で勝ち進んだ秋田県成年女子チームが出場。同チームには、角館大弓会から齊藤千明さんが監督、齊藤美喜子さんがコーチ、田口朱実さんと佐川和花さんが選手として参加しました。惜しくも予選敗退となりましたが、日頃の成果を遺憾なく発揮した同チームは、来年以降につながるパフォーマンスを見せてくれました。また、10月1日に開催された第68回秋田県勤労者弓道大会では、仙北市役所が事業所として出場し、団体戦に藤田純葵さん、小田野直光さん、阿部晃之さんの3人、個人戦に雲雀大亮さん、柴田文さんが出場しました。団体戦では、見事に優勝を勝ち取り、来年6月に開催される全国勤労者弓道大会への出場権を得ました。また、あわせて、阿部さんが個人優勝、藤田選手が準優勝を獲得しました。角館大弓会では、角館武道館弓道場で毎月・水・金の19時〜21時まで稽古を行っています。見学は自由ですので、弓道に関心のある方はぜひ足を運んでみてください。



秋田県勤労者弓道大会で団体優勝した仙北市役所の（左から）藤田純葵さん、小田野直光さん、阿部晃之さん。



国民体育大会に出場した秋田県成年女子チーム。



全国中学生弓道大会に出場した（左から）草薙史さん、細川瑛太さん、田口健成さん、藤澤遥陽さん。

令和4年度全国小学生ソフトテニス大会 秋田県予選会兼東北選抜春季大会秋田県予選会

澤山・加藤ペアが第3位に

10月15日、令和4年度全国小学生ソフトテニス大会兼東北選抜春季大会秋田県予選会が大館市高館公園テニスコートで開催され、澤山心咲（仙北市ジュニア）、加藤千尋（仙北スポ少）ペアが小学校5年女子の部で第3位に入りました。23ペアが出場した同部で澤山・加藤ペアは、予選リーグを順当に突破。惜しくも準決勝で敗れたものの、3位となり、来年3月に宮城県仙台市で開催される東北選抜春季大会の出場権を獲得しました。



澤山心咲さん（右・西明寺小5年）と加藤千尋さん（左・太田東小5年）ペア。

栄光・表彰 ～輝くとき

田沢湖×台湾澄清湖姉妹湖提携35周年記念事業

「台湾に行きたくなる！」イベント開催

10月22日、思い出の湯分校を会場に「台湾に行きたくなる！」が開催され、会場では台湾の味や写真のパネル展示など、台湾の魅力が披露されました。これは、田沢湖と台湾の澄清湖が姉妹湖提携35周年になることから、記念事業の一環として仙北市国際交流協会が主催したものです。当日は、角煮バーガーや台湾カステラなどの台湾にちなんだ商品が販売され、会場を訪れたお客さまは目当ての品物を購入し、売り切れの品物が続出。台湾のお茶を振る舞うお茶会では、事前に申し込みがあった10人が、壺中天 高橋司さんを講師に4種類のお茶の淹れ方を教わりながらお茶を楽しみました。また、会場で台湾図書の展示をしており、市民に台湾の文化にふれていただきました。そのほか、台湾人の父と日本人の母との間に生まれ、幼少期を台湾で過ごした一青妙さんが「仙北市と台湾をつなぐ2つの鍵 高雄澄清湖と台北北投温泉」を演題に講演が行われました。一青さんは、作家、女優、歯科医として活躍し、台湾・台南市の



講演を行った一青妙さん。

親善大使として活動されています。講演では「台湾と二つの提携がある自治体は私が知る限り、ほとんどない。そのことをもっとPRして、お互いにこの提携をもっと利用してジャンプアップする形になる」といいます。東京や関西に比べ、台湾人が東北を訪れる数が少ない。逆に、台湾人が行ってみたい、興味を持っているのが東北と答えるのが1位となっている。市民の皆さん一人ひとりが観光大使として、もっともつとこの仙北市のよさをアピールし、絆をより太くしてもらいたい」と話しました。記念事業は、11月末まで続いており、11月2日〜30日まで田沢湖クニマス未来館で澄清湖写真展、11月23日に仙北市市民会館で映画上映会が開催されます。

大曲支援学校せんぼく校高等部

秋田内陸線駅舎清掃で地域貢献

10月18日、大曲支援学校せんぼく校高等部の皆さん13人が内陸線駅舎の清掃活動を行いました。この活動は、せんぼく校が開校してから、地域の方や観光で訪れる皆さんに気持ちよく駅を利用してもらうことを目的に、毎年、春と秋に実施しています。これまでは、せんぼく校だけの取り組みとしていた活動に、地域の方々つながりをもつ機会として、今回から賛同いただける地域の皆さんにも呼びかけての実施となりました。当日は、角館駅から内陸線に乗りした13人が西明寺駅で6人、八津駅で7人が下車し、それぞれの駅で清掃活動を行いました。西明寺駅では、普段から管理している田村アヤ子さんも参加。田村さんは「一人ではできることが限られ、ありがたい」と話しました。そのほか管理するうえで、夏の除草と冬の除雪に苦労していることや大変なことを話して教えてくれました。



ホームや待合室のほか、駐車場も清掃しました。

善意ありがとうございます

あいおいニッセイ同和損保株式会社から

企業版ふるさと納税による寄付金をいただきました

このたび、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社より、仙北市が「第2期自らが拓くまちづくり計画」にもつき取り組んでいる「新たな地域社会の形成事業」に対して企業版ふるさと納税制度を活用した寄付金をいただきました。11月2日には、同社の阪口達彦秋田支店長から田口市長に目録が手渡されました。阪口秋田支店長は「県内有数の観光地である仙北市の地域発展に有効に活用していただきたい」と話しました。同社とは令和2年11月13日に地方創生に関する連携協定を締結しており、これまでWEB視聴セミナーやエゴドライブ・安全運転推進イベントの開催、避難所設営・運営診断サービスチェックなどを実施してきました。今年度もアプリ上でキッチンカーの営業可能場所と営業希望者をマッチングするキッチンカーアプリの活用した市役所敷地内でのキッチンカー営業の実施や、運転シミュレーター機能付き運転適性診断機器の市への貸し出しなどでご協力をいただいています。



阪口支店長（左）から田口市長（右）に手渡されました。